

花台（京都紅葉塗り）の製作手順

あらかじめ、様々な形の木版の片面に漆（オレンジ・黒）を塗っておく

製作に要する時間 約90分

使用する道具 作業台・サンドペーパー（18番）・柔らかい布
刷毛（羊毛）・小筆・新聞紙

材料を確認をする。

木板（およそ200×200） 1枚 カシュー漆
油性系オイルステイン・ウォールナット（オレンジ・黄色・緑など）

漆を塗った面の裏側を、サンドペーパーで磨く。

（次の作業の塗装の仕上がりがなめらかになる。）

柔らかい布で拭く。

（細かい木屑もとれて、なめらかになる。）

カシュー漆を、木板のはじから1センチ内側から塗り始め、刷毛を一気に動かして塗る。（木のはじに塗料がたまらない技法で「返し塗り」という。）

新聞紙の上で、乾燥させる。（換気に気をつける。）

漆を塗った面に、模様になる「もみじ・イチョウなどの葉」をおいて、構成を考える。

落ち葉の表側に、油性系オイルステイン・ウォールナットを塗る。（混色もできる。）

（葉の裏側には、塗料がつきにくい。塗料のつけ過ぎに注意する。）

版画の要領で、型おしをする。

（新聞紙をのせて上から押すと、均等に力がかかって、きれいに模様が出る。）

乾燥したら、布でホコリなどでふき取る。（次の作業で仕上がりが良くなる。）

つや出し（水性ウレタン）を「返し塗り」で塗る。（カシュー漆と同じ要領。）

乾燥したら、布でふいて仕上げる。（つやが出る。）

